

ながたに暮らし体験記



小さな拠点 「来ちみなあーハウス」 の利活用術

今年の花いっぱい長谷祭り（6/25 開催）の印象です。

150 名を超す参加者で、田植えそしてレディースのもてなし料理に舌鼓を打ちながら神楽舞へと大いに盛り上がりました。そんな中、すぐとけ込んだ方が共助研参加者にいました。缶ビール片手に畦で「こ昼（こびる）※¹」を楽しむ姿、黒松神楽保存会に入会か・・・と思わせるかのごとく、熱く乱舞する姿はまるで童心に返ったかのようでした。

童心と言えば、【童（わらべ）】は、里の上に立つと書きます。子供達が長谷の皆様との交流しながら成長し大人になった時、子育てに必要な感性やルールなどは、こうした里づくりの舞台で醸成される気がしました。もうすぐ夏休みです。小さな拠点「来ちみなあーハウス」で、子供達も交え定期的に「かたる村塾（仮称）※²」など開催しては如何でしょうか？

《“かたる村塾”の進め方》

ステップ1：「長谷といえば○○」を作り出す（見出す）

●○○の実あられ、□□餅、△△加工品、竹木材等加工製品、柴北川の恵み（米・野菜）

ステップ2：地域の魅力を肌感覚で見える化

- 地産地消にこだわった食材の伝授講座
- 地域に伝わる薬膳料理、田舎蕎麦を学ぶレシビ講座
- 匠の技（竹細工）を披露する工房兼ギャラリー

ステップ3：稼げる事業を目指して

- 特産品実演販売、地域情報誌、マスコミ、長谷ファンによる誘客。広報で固定客やリピータ客を確保。
- 市内「道の駅」、近隣市町観光協会、食生活推進団体、大学等の地域づくり支援グループとの協働環境づくり
- 企画スペースとしての貸出や、おせったい処※³、ライブ（灯明の下でのギター演奏会）
- 観光農園の試行（自ら挑戦し、栽培育成そして販売へ）

（共助研副会長：赤星文生）



※1「こびる」とは大分で使われる中休み、おやつ

※2「かたる」とは大分弁で参加する、語るを掛けて

※3 大師様の祭り、子供達が家を廻りお供えを戴く伝統行事

2017年7月5日発行



来ちみなあ 9号

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」（和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅）での活動を紹介します。発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

共助研からの伝言

「私のコダワリ」トーク 第1回を開催しました。

「来ちみなあハウス」を活用しての様々な人と人との「対流」。その第1歩としての「私のコダワリ」トーク第1回を、6/24に11人の参加者で開催しました。

「ながたに風」で足立さんが紹介されているように、少し考えさせるトークあり、飲んで食べての楽しい語り合いあり、のあつと言う間の2時間でした。日頃、普通につきあっている親しい人たちの、それぞれのコダワリ話を聞くことは、ご本人の意外な面がわかって楽しく、しかも、新たな活動ネタの供給源としても面白いなと感じました。

ちなみに、バラバラのまままだ使えない残材を一か所に集めて、安定した木材量で出荷するという仕組みが「木の駅」で、高知県で始まり全国40地域に広がっています。（九州では八代市や小国町で）

バラバラのまま一人だけの楽しみで終わってしまうコダワリも、みなさんと共有すると、場合によっては地域おこしにつながっていく。そんな「トークの駅」になると素晴らしいですね。次回のトークは、ご当地の神楽をテーマにと、検討しています。この「トークの駅」を続ければ、ゆくゆくは赤星さん提案の「かたる村塾」になる、・・・といいなあ（？）

みなさん、気軽にお立ち寄りください。

（波木健一）

ながたに風



長谷でも、 地域内でお金が回る仕組みを

花いっぱい長谷祭り（田植え）前日の6月24日夕方に、「来ちみなあハウス」で研修会を行いました。

日頃の生活の中で持っている「こだわり」をテーマにお話をし、その後、飲みながら食べながら話し合う企画です。1回目は「木の駅・軽トラ、チェーンソーで山も人もいきいき」という題で、共助研の濱田さんが話してくれました。

山で放りっぱなしになっている木を、「木の駅」に出して、山をきれいにし、地域が元気になって、自分も小遣い銭が稼げるシステムの紹介でした。地域内でお金が回る仕組みが、長谷でもできたらいいなあと思いながら聞いていました。

トーク後の「問う食うタイム」では、文字通り食う、飲む、しゃべるで、時間のたつのも翌日の田植えのことも忘れて盛り上がりました。

トーク2回目は、地元の神楽のことを三浦君重さんと樋口春夫さんが話してくれたいいなあという話になりました。

翌日25日（日）の田植えは、心配されたお天気も始まるころには回復し、予定通り行われて、いつも以上の参加者で賑わいました。



これからの長谷は、しばらくの間、こちらで「田植えよこい」と言う「農閑期」に入ります。

8月になるとお盆の行事が各地区で行われ、14日夜は柴北下・黒松・栗ヶ畑地区で供養盆踊りが、15日には柴北上地区で精霊流しが行われます。

昔ながらの風習を守り伝えていくことが、だんだん困難になってきていますが、みんなと力を合せて繋いでいきたいと思っています。

（足立哲司）